

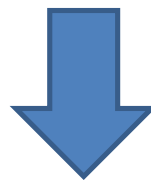
公立大学法人金沢美術工芸大学
平成26年度業務実績報告書
論点整理表

公立大学法人金沢市評価委員会

□ 全体的実施状況

5 財務内容の改善に関する目標

財務基盤の強化を図るため、平成27年度の文部科学省科学研究費補助金の公募に、12件の申請を行った。また、三谷研究開発支援財団の公募に2件の申請を行った。




財務基盤の強化を図るため、平成27年度の文部科学省科学研究費補助金の公募に、10件の申請を行った。また、三谷研究開発支援財団の公募に2件の申請を行った。
そのうち、文部科学省科学研究費補助金は3件、三谷研究開発支援財団は1件の採択を受けた。

〔質問・意見等〕

・採択結果についても記載してください。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。	(イ) 入学受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学受入方法について再検討し、その結果を実践する。	(7) 22年度に策定した入学受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき実施した26年度一般選抜試験が、その受入方針の実現にふさわしい選抜方法であったか検証を行い、 <u>その結果を入学試験に活かす。</u>	○入試委員会において、26年度入学試験を検証し、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、各専攻でアンケートによる検証を行った。また、今年度から一般選抜試験に加えて、推薦入試においても、アンケートによる検証を実施した。 	Ⅲ		資料1 1
		<p>【追記対応】</p> <p>○入試委員会において、26年度入学試験を検証し、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、各専攻でアンケートによる検証を行った。</p> <p>各専攻で行ったアンケート結果から、共通項目として、入試期間中のチャイムの音が専攻によって時間が違うので、工夫をすることや、聴覚障害者の受験者に対する対応など次年度入試へ活かしている、また専攻ごとの問題については、専攻内で協議し、次年度へ向けての改善を行っている。</p> <p>また、今年度から一般選抜試験に加えて、推薦入試においても、アンケートによる検証を実施した。</p>				

〔質問・意見等〕

・「年度計画」の記述にある「…その結果を入学試験に活かす。」とあるが具体的にどう活かされたのですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術に対する高い資 質を持つ学生を募集 し確保するため、各 科、各専攻ごとに、 それぞれが求める学 生像や能力、適性等 について入学者受入 方針を定め、これに 基づいた学生の選抜 を行う。	(イ) 入学者受入方針に応じた学 生の受入れを行うため、現行 の入学者選抜方法について再 検討し、その結果を実践す る。	(イ) 26年度一般選抜試験の出 願・入学状況や他大学との日程 重複等を分析し、今後の入学試 験日程等の検討を行い、必要な 場合には改善を図る。	○一般選抜試験の出願・入学状況や他 大学との日程重複等を分析し、今年度 の入学試験についても引き続き中期日 程を採用することを決定した。他大学 の入試日程、出願状況等の調査・分析 については継続して行うこととした。 	IV		資料2 2
		<p>【追記対応】</p> <p>○一般選抜試験の出願・入学状況や他大学との日程重複等を分析し、今年度の入学試験についても引き続き中期日程を採用することを決定した。他大学の入試日程、出願状況等の調査・分析については継続して行うこととした。</p> <p><u>この結果、東京藝術大学、京都市立芸術大学、愛知県立芸術大学が</u> <u>出願倍率を下げた中、本学は上昇した。</u></p> <p>○<u>国公立五芸大では、金沢美大のみ中期日程を採用しており、今年度</u> <u>も倍率が上昇し、中期日程が受験生にも定着している、また、一度中</u> <u>期日程から離脱すると中期日程に戻れないデメリットもある。</u></p>				

〔質問・意見等〕

- ・他大学の志願倍率が落ちている中、金沢美大が伸びているということで自己評価を「IV」としたということだが、他大学の志願倍率が判明してるのであれば記載するべきではないですか。
- ・今年度も引続き中期日程を採用した根拠はなんですか。

□ 項目別実施状況


大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(ウ) ものづくりの精神を習得させるため、金沢の文化や環境などの地域特性を生かした工房教育プログラムを充実する。	(イ) <u>工芸資料の充実（平成の百工比照等）とその公開及び授業での活用を検討し、ものづくりの精神を学ぶ教育を充実する。</u>	<p>○「平成の百工比照」（日本の工芸における技と意匠の一大標本）として、新たに陶磁分野の工芸資料を制作・収集した。また、27年度に金沢市で開催されるユネスコ創造都市会議における「平成の百工比照」の展覧会（会場：金沢21世紀美術館）について実行委員会（金沢市）で検討しつつ、展示準備を始めた。</p>  <p>【追記対応(末尾に)】 ○工芸科の専攻科目「<u>工芸演習(二)</u>」(陶磁・染織・金工・漆木エコース、2年次)「<u>工芸演習(三)</u>」(陶磁・染織・金工・漆木エコース、3年次)、芸術学専攻の専攻科目「<u>芸術学演習(三)</u>」(工芸史研究領域、3年次)において活用を検討するとともに、実際に授業において教材として用いても<u>の作りの精神を学ぶ機会とした。</u></p>	III		資料10

[質問・意見等]

・「年度計画」の下線部の記述が業務実績では触れられていないが記載するべきではないですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育においては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。		(カ) 社会の第一線で活躍するデザイナーや企業人を講師として招聘し、実践的な演習等の充実を図る。	○デザイン科における各専攻科目等で、引き続き社会で活躍するデザイナーや企業人を非常勤講師として招聘し、実践的な演習等の充実を図った。  【差し替え対応】 ○デザイン科3専攻では、個人で活躍するフリーランスデザイナーや企業デザイナーを非常勤講師として招聘し、実践的な演習の充実を図っている。視覚デザイン専攻では、広告代理店、映像、ゲーム関連のクリエイターなど25名、製品デザイン専攻では、家電や情報機器、自動車関連の企業デザイナーなど18名、環境デザインでは、住宅設計、展示ディスプレイ、建築家など32名、各専攻の演習に合わせたワークショップや実務経験を踏まえた作品へのアドバイス、実社会で必要なアイデア展開など、学生にとって刺激的な内容の講義を行い、実践的な演習等の充実を図った。	III		14

〔質問・意見等〕

- ・実体がどのようなものかわかりにくい。
- ・「社会で活躍するデザイナーや企業人」との記載があるが具体的な内容はどのようなものですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(イ) これまでの実績を検証し、企業や工芸作家等の協力を得て、インターンシップの促進を充実させる。	<p>○デザイン科3専攻では広告代理店や自動車、家電、建築設計事務所など、卒業後の就職先となるような企業及び事務所等へのインターンシップを募集し、多くの学生が参加した。</p> <p>○工芸科では地域工芸演習Ⅱの授業として、3年生を対象に陶磁、金工、染色、漆、木工に関する工房や企業、個人の工芸作家、ギャラリー等でのインターンシップを実施した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【修正対応】 ○デザイン科3専攻では広告代理店や自動車、家電、建築設計事務所など、卒業後の就職先となるような企業及び事務所等へのインターンシップを募集し、<u>視覚デザイン17名、製品デザイン16名、環境デザイン20名の合計53名の</u>多くの学生が参加した。</p>	III		


15

〔質問・意見等〕

・「業務実績」の下線部の記述について何人の学生が参加したのですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(オ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】	(ク) 開講できていない造形表現工房科目の開講及び新科目の開講など工房教育の充実を図る。	○開講できていなかった造形表現工房科目のうち新たに自由科目「造形表現工房Ⅰ（メディア/メディアアート表現）」を開講するため、教務委員会においてシラバスに表記する授業内容を検討・確認し、27年度より開講することを決定した。  【修正対応】 ○造形表現工房科目は、「Ⅰメディア」「Ⅱ平面」「Ⅲ立体」「Ⅳ素材・技術」「Ⅴ社会環境」「Ⅵ語学・理論」の6領域で構成される。このうち開講できていなかった、「Ⅰメディア」の科目として新たに自由科目「造形表現工房Ⅰ（メディア/メディアアート表現）」を開講するため、教務委員会においてシラバスに表記する授業内容を検討・確認し、27年度より開講することを決定した。	Ⅲ		資料14


16

〔質問・意見等〕

・業務実績下線部に関連して開講科目は全部でいくつあり、そのうち平成27年度開講できたのはいくつなのですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(ウ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】	(ケ) 金沢大学との連携協定を活用して、相互に講義等を受講できる仕組みづくりに向けた協議を継続する。	<p>○金沢大学において両大学の連携推進会議を開催し、双方から理事が3名ずつ出席し協議を行った。</p> <p>○包括協定に基づいて、金沢大学医薬保健学域医学類の3年生6名の基礎配属受講者を対象に、人体デッサンの歴史や様式プロポーション等の概説の講義を行い、10日間に渡るデッサンの実習を本学で行った。</p> <p>○金沢大学からは通常の科目として美術解剖学の講義を美大で開講した。</p> <p>○ホスピタリティー・アート分野に関する交流シンポジウムを2月に本学において開催し、三浦教授、根来准教授が講演を行った。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>【修正対応】 ○ホスピタリティー・アート分野に関する交流シンポジウムを2月に本学において開催し、本学の三浦教授、根来准教授が講演を行った。</p>	Ⅲ		資料15


17

〔質問・意見等〕

・業務実績下線部に関連して講演をおこなった教授・准教授は金沢美術工芸大学・金沢大学のどちらの大学の所属教員ですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。	(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。	(ウ) これまでの実績を検証し、企業や工芸作家等の協力を得て、インターンシップの促進を充実させる。	<p>○学生が社会と接点を持つことを通じて実践的で高度な教育を行う目的で、デザイン科では広告代理店、自動車、家電メーカーや建築設計事務所等、卒業後の就職先となるような企業においてインターンシップを実施した。</p> <p>○工芸科では陶器や金属等に関する工房や企業、個人の工芸作家、並びにギャラリー等においてインターンシップを実施した。</p>  <p>【追記対応(末尾に)】 ○産学連携課題では修士学生がリーダー的な役割を果たし、企業から高い評価を受けた。プロジェクトに参加した学士学生は、企業のインターンシップにも参加し、更に技術や素材などを学ぶことができた。</p>	III		


21

〔質問・意見等〕

・実績の検証結果がどうであり、それを踏まえて業務実績の実施となったのですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。	(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。	(I) 問屋まちスタジオやアートベース石引を活用して大学院生自らが地域や企業等の課題を研究テーマとして企画展を開催する。	○問屋まちスタジオで開催された「といかける美2014」において、大学院生が、プロジェクト計画全体の実施に積極的に関わった。問屋町の企業から素材や技術の提供を受けて学生が作品を制作したほか、企業の紹介も行き、問屋町を身近に感じてもらう契機とした。 	Ⅲ		資料11
		【差し替え対応】 ○企業が持っている技術や素材などを活用してアートに展開し、現代都市空間におけるアート機能の可能性を探るという企業からの課題を受けて、「といかけるび2014」というタイトルの企画展を開催し、大学院生が、プロジェクト計画全体の実施に積極的に関わった。 問屋町の企業から素材や技術の提供を受けて学生が作品を制作したほか、企業の紹介も行き、問屋町を身近に感じてもらう契機とした。 会期は2014年8月22日から8月31日で、教員学生合わせて14名が出品した。				22

〔質問・意見等〕

- ・具体的にどのような課題があったのか。もしくは企業等の課題を研究テーマとする企画展は行われなかったのですか。
- ・またこれらの企画展の時期いつなのか。また参加人数は何人なのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(7) 引き続き、シラバスの成績評価欄について基準を明確にするための記載を検討し改善する。	<p>○26年度シラバスにおいて各科目の「成績評価欄」に“評価基準”（A～C）の表記の徹底を周知して、成績評価基準の学生への明示に努めた。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【修正対応】 ○26年度シラバスにおいて各科目の「成績評価欄」に“評価基準”（A～C）の表記の徹底を周知して、成績評価基準の学生への明示に努め、<u>全体の達成率は9割を超えた。</u></p>	III		資料20


25

〔質問・意見等〕

・達成率はどのくらいですか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(4) 博士後期課程の学位審査の客観性と公開性を向上させるため、学位授与基準を厳格に適用する仕組みを構築するとともに、博士学位取得者の社会的信頼性の向上に努める。 【22年度構築】	(I) 22年度に策定した学位授与基準に基づき、公開による作品審査と口述試験を実施して、 <u>学位取得者の社会的信頼性の向上に努める。</u>	○博士後期課程の学位審査について、策定された学位授与基準に基づき、審査会を行い、大学院研究科委員会の審議を経て、学位を授与するとともに、審査結果を学外に公表した。  【修正対応】 ○博士後期課程の学位審査について、策定された学位授与基準に基づき、「卒業・修了制作展」会期中のうち二日間(平成27年2月15～16日 於：金沢21世紀美術館)で公開による作品審査と口述試験(於：学内教室)を行い、大学院研究科委員会の審議を経て、学位を授与するとともに、審査結果をホームページで公表した。	Ⅲ		資料22

28

〔質問・意見等〕

・年度計画にある下線部の部分を業務実績の中で具体的に記載してください。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 教育活動を活性化し、学生の自主性や創造性を引き出すため、学生に対する学習指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。	(7) 学生の学習支援を充実するため、自主的な学習や研究活動の支援に携わる教員を配置する。 【22年度検討、以降試行】	(7) 造形表現工房科目の充実と 展覧会活動や産学連携・地域連携など学生の自主的な学習や研究を支援できる体制を充実する。	○自由科目「造形表現工房Ⅴ（社会環境/景観形成・造園演習）」の受講生が大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール支援事業「ランドスケープデザインによる加賀橋立伝建地区の公開拠点施設整備と回遊性の向上」に参加するなど、自主的な学習を支援するための造形表現工房科目の充実を図った。 ○アートベース石引や柳宗理デザイン研究所などの学外施設では、学生による展覧会の開催等を教員が指導した。 ○英語での言語表現に関する自主的な学習を支援するため、 <u>イングリッシュヘルプセンター</u> を引き続き開設した。	Ⅲ		資料27
		【追記対応(先頭に)】 ○大学コンソーシアム石川で獲得した文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の選定取り組みにおいて、本学からは工芸科教員1名が漆と器の食「手で食べる、目で食べる」をテーマとした授業科目を提供した。 【修正対応】 ○英語での言語表現に関する自主的な学習環境づくりのため、主に英語圏への留学を目指す学生向けにネイティブの教員による学習支援を行った。	↓			

33

〔質問・意見等〕

・イングリッシュヘルプセンターとはどのような組織ですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(7) 授業内容や教育方法の改善及び教育を支える管理運営や事務部門の能力向上のための組織的な活動（FD・SD活動）に計画的かつ継続的に取り組み、全学的な教育力の向上を図る。	(7) 教務委員会・学生支援委員会との意見交換会を受け、その改善策を、1. 教育内容の改善（授業相談、オフィスアワー利用の充実）、2. 学生生活への支援（独自の奨学金制度導入の検討）、3. メンタルサポート（学生相談室と教員との相互理解）など各方面より改善策を挙げ実施する。	○昨年度と同様に全教員によるオフィスアワーを実施した。 ○本学独自の奨学金制度を検討し学生への緊急支援として「緊急支援奨学金制度」を8月より施行した。 ○学生相談室に教員5名を配置して、大学生生活全般に関する相談指導に積極的に応じた。また、新任教員との個別面談を行い、学生相談室と連携した学生支援について紹介したほか、教員全体の座談会を開催し、日頃の学生の様子等を意見交換した。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【追記対応（先頭に）】 ○平成26年2月28日(金)10:30～12:00に開催した教務委員会・学生支援委員会との意見交換会を受け、以下の対応を実施した。 </div>	III		資料31 資料32 資料33

37

〔質問・意見等〕

・業務実績では教務委員会・学生支援委員会との意見交換会がいつ実施されたのか不明なので記載するべきではないですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(7) 授業内容や教育方法の改善及び教育を支える管理運営や事務部門の能力向上のための組織的な活動（FD・SD活動）に計画的かつ継続的に取り組み、全学的な教育力の向上を図る。	(イ) 変化の兆しが見受けられる学生気質に応じた教育指導に取り組むため、 <u>教育研究センター、自己点検・評価実施運営会議、教務委員会、学生相談室及び事務局が連携し、組織的な研修活動（FD・SD活動）を実施する。</u>	○自己点検・評価実施運営会議が授業アンケートを実施した。 ○教務委員会では随時、休学者や退学者、および留年者を含む単位未修得者について各専攻からの説明を求め、学生個々の状況の把握と共有に努めた。 ○新任教職員に対しては、初任者研修会を開催し、「学生との接し方」について、担当理事から研修を行った。 ○教職員研修として、株式会社日本アンガーマネジメント協会の松村聖也先生を講師に招き、「アンガーマネジメントから生まれるよりよい教育環境」を演題として大学における教育方法向上のための研修を実施した。 ※アンガーマネジメントとは、怒りやいら立ちといった感情を衝動にまかせて爆発させるのではなく、上手にコントロールして適切な問題解決やコミュニケーションに結びつけることをいう。  【追記対応（末尾に）】 ○各会議、委員会等で出された意見を参考に平成26年8月7日（木）17：30～学生相談室が主催した合同の意見交換会「現在の金沢美大生について語る」会を開催した。	III		資料34 資料35 資料36

38

〔質問・意見等〕

・業務実績では具体的に下線部の各組織体がどう連携したのか内容が不明であるため、それを明らかにした記述をしてください。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(7) 授業内容や教育方法の改善及び教育を支える管理運営や事務部門の能力向上のための組織的な活動（FD・SD活動）に計画的かつ継続的に取り組み、全学的な教育力の向上を図る。	(7) 教育を支える大学事務職員の養成のための研修等を実施する。	○全国学生相談研修会に参加し、相談の技法について理解するとともに、相談事例の検討を行った。  【修正対応】 ○日本学生相談会が平成26年11月30日～12月2日に主催した全国学生相談研修会に山村教授及び小林インテーカーの2名が参加し、相談の技法について理解するとともに、相談事例の検討を行った。	III		資料37

39

〔質問・意見等〕

・「全国学生相談研修会」はどこの主催で何人が何回出席したのかを業務実績に記載してください。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(ウ) 学生アンケートや評価機関の評価結果を活用した授業内容の改善を進める。	(オ) 昨年度実施した卒業生アンケートの様式を精査し、授業内容の改善を進める。	<p>○25年度卒業生全員を対象にして大学教育全般についてのアンケートを実施し、集計結果についてホームページで公開した。その結果の反映について教員各自及び各専攻・科において検討し、実施できるものから改善を進めた。</p>  <p>【差し替え対応】 ○昨年度に引き続き、25年度卒業生全員を対象に教育、福利厚生、施設設備など大学の教育・生活全般についてのアンケートを実施し、それを集計・分析した上で結果をホームページで公開した。分析は、自己点検・評価実施運営会議が行ったが、まだ実施して2回目であり、アンケート項目の精査（有用な項目かどうか）、PDCAサイクルの実現（どのように分析し改善・評価につなげるか）など、試行段階である。分析結果を受けて、無線LANネットワークの充実など教育環境面の改善がなされた。</p>	Ⅲ		資料23

41

〔質問・意見等〕

・業務実績の下線部について集計結果の分析内容はどのようなもので何を改善したのですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(イ) 福利厚生面での充実を図るため、学生の意見を広く聴き、改善に努める。	(イ) 学生自治会等との意見交換等を実施し、学生の意見を聴き、学内環境の改善に努める。	<p>○昨年度と同様に学生自治会執行部と3回の会合を行い、自治会が主管する行事の改善へ向けての話し合いを行った。</p> <p>○体育祭、美大祭など学生の自主的活動の支援を学生自治会の要望に応じ支援した。また、喫煙場所の設置等、学生生活に添う福利厚生のための手立てを学生支援委員会の教員と学生自治会との協議の場を設け決定した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【修正対応】 ○昨年度と同様に学生自治会執行部と美大祭実行委員会（4月30日開催）、自治会執行部（5月29日開催）、美大祭実行委員会（4月30日開催）の3回の会合を行い、自治会が主管する行事の改善へ向けての話し合いを行った。</p>	Ⅲ		

52

〔質問・意見等〕

・業務実績の下線部について誰といつ行ったのですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。	(ウ) 若手教員の研究の高度化や大学の特色ある研究を推進するため、教員研究費の効果的な配分に努める。	(オ) 大学コンソーシアム石川を介した大学間連携推進事業に基づく若手教員による新たな分野の共同研究を継続して推進する。	<p>○大学コンソーシアム石川で獲得した文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の選定取り組みにおいて、本学からは工芸科教員1名が漆と器の食「手で食べる、目で食べる」をテーマとした授業科目を提供した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【差し替え対応】 ○大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール支援事業「ランドスケープデザインによる加賀橋立伝建地区の公開拠点施設整備と回遊性の向上」に環境デザイン専攻の鏝教授のグループが参加した。</p>	III		資料49

59

〔質問・意見等〕

・「大学間連携共同教育推進事業」に関わるものである以上、それは「研究」ではなく、「教育」の活動なのではないですか。


大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。	(ウ) 若手教員の研究の高度化や大学の特色ある研究を推進するため、教員研究費の効果的な配分に努める。	(カ) 大学の特色となる研究や若手教員の研究の高度化に対し、効果的な研究費の配分を行う。	○研究費の総額の中から、科学研究費に申請する教員に対して1件につき8万円の補助金を支給して、若手教員の研究の高度化を支援した。26年度は8件の補助金を交付して効果的な投資を行った。  【差し替え対応】 ○研究費の総額の中から、科学研究費申請の支援として学内の講習会と個別指導を行っており、申請に必要な調査や書類作成に必要な費用として8万円を補助し、若手教員の研究の高度化を支援した。 科学研究費は、平成26年度に8件申請して、2件が採択された。	III		資料50 60

〔質問・意見等〕

・業務実績の下線部について科研費申請支援の仕組みを詳細に、また何人申請を行い、何人採択されたのですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。	(イ) 文部科学省の大学に対する補助制度等を活用し、大学の研究活動を推進する。	(キ) 文部科学省の競争的補助制度の27年度申請にむけて、大学として取り組む研究を具体化する。 【差し替え対応】 ○文部科学省の競争的補助金の27年度申請に向けて、教育研究センター主催で科研費申請支援報告会を実施するとともに、25年度の申請支援活動の報告および審査結果の開示情報に基づき申請者本人による申請書作成時の留意点・反省点等について報告を行った。 ○実技系研究の科研費採択を目指した申請支援活動として、26年度申請予定者を対象に、外部講師を招聘して応募書類の添削会を開催した。 ○科学研究費補助金（基盤研究A：平成25～27年度）「日本における「美術」概念の再構築」における研究会を開催するとともに国際シンポジウム（金沢会場：金沢美術工芸大学・金沢21世紀美術館、福岡会場：福岡アジア美術館）を開催した。	○科学研究費補助金（基盤研究A） 「日本における「美術」概念の再構築」における研究会を開催するとともに国際シンポジウム（金沢会場＝金沢美術工芸大学・金沢21世紀美術館、福岡会場＝福岡アジア美術館）を開催した。 	III		資料51

61

〔質問・意見等〕

・年度計画と業務実績との記載の整合性が取れていますか。また科学研究費補助金（基盤研究A）「日本における「美術」概念の再構築」の採択年月日はいつなのですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 芸術の振興・普及を促進するため、調査研究の成果を体系的に蓄積し、有効活用を図るとともに、国内外に向けて積極的に発信する。	(ウ) 研究成果の活用を図るため、その成果を整理・蓄積し、公開する。	(ウ) 柳宗理記念デザイン研究所の2階部分を改修整備する。また、柳コレクションを中心に調査研究を継続するとともに同施設をデザイン教育の充実に活用するほか、市民向けのデザイン啓発事業を展開する。	<p>○柳宗理記念デザイン研究所2階部分の改修整備を完了した。 ○柳宗理の著作目録データベースの整備を行うとともに、デザイン科学生の作品展示や授業で施設を利用したほか、市民を対象としたデザイン啓発事業として、<u>公開講座を3回開催した。</u></p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【修正対応】 ○柳宗理の著作目録データベースの整備を行うとともに、デザイン科学生の作品展示や授業で施設を利用したほか、市民を対象としたデザイン啓発事業として、柳宗理記念デザイン研究所で、<u>公開講座を3回開催した。</u></p>	III		資料56

65

〔質問・意見等〕

・業務実績に公開講座を行った場所の記載をしてください。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 特色ある研究活動を積極的かつ効果的に推進するため、研究実施体制や研究環境を整える。	(7) 教員が研究に取り組むための柔軟な研究環境を整える。 【前期：現状分析、中期：改善】	(7) 研究環境の整備については引き続き改善策を策定する。特に、大学運営等に係る教員の負担の適正化を図る具体的な改善を行う。	<p>○各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の具体的な活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行う教員評価制度を実施した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【差し替え対応】 ○「目標・自己評価シート」と名づけて、各教員が教育・研究・社会活動・大学運営の4分野において年度当初に目標を立て、年度末に教員自身による一次評価（S・A・B・C）と学長による二次評価を行う、教員評価制度を平成26年度より実施した。 この教員評価制度においては、「大学運営に関する役職、委員等への就任」という記述項目があり、大学運営等に係る教員別の負担を把握することができる。学長による二次評価を通じて、教員間での負担の適正化に資するものとしてこれを活用している。</p>	III		資料57

66

〔質問・意見等1〕

・「年度計画」に対する「業務実績」の記述内容が必ずしも対応していない観がある。

(備考)

「業務実績」の記述を項目番号98に移動したほうが収まりが良いように思う。

〔質問・意見等2〕

・「年度計画」に対する「業務実績」の整合性が取れていないのではないか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	(イ) 包括協定を締結した金沢大学との間で、両大学の特徴を活かした共同研究の可能性を検討するほか、医学類と連携して医療やアートに関する特別講義等を相互に開催する。	<p>○金沢大学において両大学の連携推進会議を開催し、双方から理事が3名ずつ出席し協議を行った。</p> <p>○本学と理工系のものづくり実践プロジェクトを実施した。</p> <p>○本学と金沢大学とのホスピタリティ・アート分野をテーマとした交流シンポジウムを2月に本学で実施した。</p> <p>○包括協定に基づいて、金沢大学医薬保健学域医学類の3年生6名の基礎配属受講者を対象に、人体デッサンの歴史や様式プロポジション等の概説の講義、10日間に渡るデッサンの実習を本学で行った。</p> <p>○金沢大学からは通常の科目として美術解剖学の講義を本学で開講した。</p>	III		資料15


77

〔質問・意見等〕

・金沢大学のカリキュラムなのか、金沢美術工芸大学のカリキュラムなのかわかりにくいのでわかりやすい記述にしてください。

また講師はどなたですか。


大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	オ 学生とともに、市民に向けた多彩なアートイベントを開催する。	(7) 23年度開設した「アートベース石引」を大学の情報発信拠点として、各種アートイベントを開催するほか、商店街を含めた地域活性化と産業との連携事業を実施する。	○学生有志のグループ展のほか、研究室単位の成果報告会や教員の研究発表や制作のスペースとして、石引商店街の賑わいづくりに貢献した。代表的なイベントとして、彫刻専攻による <u>展覧会とシンポジウムを同時に開催した「尊敬と敬愛-幻の2人展-」が行われた。</u>  【修正対応】 ○学生有志のグループ展のほか、研究室単位の成果報告会や教員の研究発表や制作のスペースとして、石引商店街の賑わいづくりに貢献した。代表的なイベントとして、 <u>展覧会とシンポジウムを内容とする「尊敬と敬愛-幻の2人展-」が彫刻専攻により行われた。</u>	III		資料12 83

〔質問・意見等〕

・意味が取りにくいので表現を変えてください。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(7) 交流協定を締結したバッファロー美術大学(アメリカ)から教員を受け入れる。	<p>○交流協定に基づき、10月26日から10月31日まで、教員1名を派遣し、教員及び学生との交流を深めるとともに、講演会とワークショップを開催した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【その他】 ・年度計画の記載に誤りがあった。本来は「教員を派遣する」とすべきであったため、可能なら修正を認めていただきたい。</p>	III		資料67

84


〔質問・意見等〕

・年度計画に対応した教員の受け入れ実績はあったと理解してよいのですか。

(備考)

そうした実績を添付資料67から読み取ることができるのですか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(イ) 清華大学（中国）へ教員と学生を派遣する。	<p>○交流協定に基づき、1月20日から1月28日まで、教員1名を受け入れ、教員及び学生との交流を深めるとともに、講演会とワークショップを開催した。滞在期間中に国際交流センターの教職員による昼食会を開いて教育と文化に関する意見交換を行った。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【その他】 ・年度計画の記載に誤りがあった。本来は「教員を受け入れる」とすべきであったため、可能なら修正を認めていただきたい。</p>	III		資料67 85


〔質問・意見等〕

・年度計画に対応した教員・学生の派遣実績はあったと理解してよいのか。

(備考)

そうした実績を添付資料67から読み取ることができるのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(I) 交流協定を締結したナンシー国立美術大学(フランス)から学生を受け入れるとともに本学から学生を派遣する。	<p>○交流協定に基づき、1月17日から3月31日まで、学生1名を派遣した。滞在期間中、聴講及び制作活動、学生との交流を行い、帰国後に留学報告会を開催した。</p> <p>○27年4月に1名を受け入れることを決定した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【修正なし】 ・平成26年度業務実績報告書のため、このような記述になったが、決定後、平成27年4月15日～6月12日に受け入れ済みである。</p> </div>	Ⅲ		資料67 87


〔質問・意見等〕

・学生の受け入れの「決定」にとどまっただけなのですか。

(備考)

自己評価Ⅲは維持してよいと考える。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(オ) ヴァランド芸術学院 (スウェーデン) へ学生を派遣す る。	○ヴァランド芸術学院において、EU全 体の国際的な交流条件への対応を検討 することになり、その条件に対応する ための本学との交流協定の更新が遅れ たため派遣することができなかった。  【修正対応】 ○ヴァランド芸術学院において、EU全 体の国際的な交流条件への対応を検 討することになり、本学においてもその 対応について検討した。追加して宿泊 費の負担条件についても新たに提案 があったため、交渉を続けたが合意に 至らなかったため受け入れできなかつ た。しかし、国際交流センターでは合意 に向けて検討を続けている。 【その他】 ・年度計画の記載に誤りがあった。本 来は「学生を受け入れる」とすべきで あったため、可能なら修正を認めてい ただきたい。 結果として実施できなかったため、評 価はⅡ。	Ⅱ		資料67

88

2

〔質問・意見等1〕

・「業務実績」の表現はネガティブすぎる。


(備考)

上記ネガティブ表現は、自己評価Ⅲと整合していない観がある。

〔質問・意見等2〕

・派遣不実施の原因は相手先か。

業務運営の改善及び効率化に関する目標
 1 組織運営の改善に関する目標
 (2) 教育研究組織の改善に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>特色ある教育研究を推進するとともに、社会の教育研究に対する要請や学生の学習需要の変化等に対応するため、教育研究組織について不断の見直しを行う。</p>	<p>ア 学問状況の変化や社会的要請に対応し、効果的な教育・研究を推進するため、学部、研究科の再編など、教育研究組織の在り方を不断に検証し、必要な改善を図る。</p>	<p>ア 効果的な教育・研究を推進するため、学部、研究科の教育研究組織の在り方を検証し、必要な改善案を策定する。</p>	<p>○自己点検・評価実施運営会議及び各科会議、専攻会議において、社会や時代の状況に対応する教育内容、教育体制のあり方について検討した。また、成美会（保護者会）、同窓会、経営審議会委員からの意見を聴く機会を持ったほか、卒業生アンケートを実施するなどして、外部からの視点を参考とした検討を行った。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【追記対応】 ○自己点検・評価実施運営会議及び各科会議、専攻会議において、社会や時代の状況に対応する教育内容、教育体制のあり方について検討した。また、成美会（保護者会）、同窓会、経営審議会委員からの意見を聴く機会を持ったほか、卒業生アンケートを実施するなどして、外部からの視点を参考とした検討を行った。その結果、教員組織の大きな見直しとして、来年度から大学院の組織改革案の策定を行うこととした。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料23 資料57</p>

93

〔質問・意見等〕

・必要な改善策の策定が行われたのであれば改善策の概要を業務実績で記載してください。

業務運営の改善及び効率化に関する目標
 1 組織運営の改善に関する目標
 (2) 教育研究組織の改善に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
特色ある教育研究を推進するとともに、社会の教育研究に対する要請や学生の学習需要の変化等に対応するため、教育研究組織について不断の見直しを行う。	イ 客観的、合理的な改善等を推進するため、自己点検・評価はもとより、第三者評価機関の意見や評価結果などに基づき大学運営を改善する。	イ 自己点検・評価及び金沢市の評価委員会など第三者評価機関の意見や評価結果などに基づき、大学運営の改善を進める。	○大学基準協会による認証評価の年に当たり、自己点検・評価報告書を大学基準協会に提出し、実地調査を経て、認証評価を受けた。認証の期間は27年4月から34年3月までである。 	III		資料70
		【差し替え対応】 ○今回の認証評価において、努力課題として以下の4点の指摘を受け、2,4については年度内に改善した。 1. シラバスにおける科目毎の精粗の是正（次年度以降、継続して改善する） 2. 年間の履修上限単位数の是正（50単位だったものを49単位に改定した） 3. 修士課程における学位論文等審査基準の明文化（次年度以降改善する） 4. 博士後期課程退学者に対して、退学後5年以内に限って課程博士の授与を認める措置（この措置を撤廃した） また、この他に、大学院における簡潔明瞭な指導スケジュールの明示するよう、指摘された。これについては、平成27年度の大学便覧（124頁）に記して、学生に明示した。				94

〔質問・意見等〕

・改善内容を具体的に記述してください。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(3) 人事制度の改善に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、大学の特性や教育研究活動の実情に即した柔軟で弾力的な人事制度を構築する。</p>	<p>(イ) 効果的、効率的な教育研究活動を実現するため、多様な雇用形態や任用制度等について検討し、教育研究の質の向上に資すると認められるものについて、制度化を図る。 【前期：検討、 中期・後期：制度化】</p>	<p>(イ) 23年度から導入した「再雇用制度」、25年度から導入した「助教」について検証を行い、さらに教員の教育研究の質の向上に資すると認められる雇用形態の制度化に向けて検討する。</p>	<p>○23年度から導入した再雇用制度に基づき、4月から彫刻専攻の新規採用の教員が着任する10月までの6ヶ月間、退職教員を再雇用し、専攻の授業を担当させることにより、質の向上に資することができた。 ○25年度から導入した「助教」については、教育研究活動及び研究報告書により評価を行った。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料72</p>

96

〔質問・意見等〕

・年度計画では「検討する」とあるが業務実績では実行した形となっている。自己評価は「Ⅲ」でよろしいですか。

業務運営の改善及び効率化に関する目標
 1 組織運営の改善に関する目標
 (3) 人事制度の改善に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、大学の特性や教育研究活動の実情に即した柔軟で弾力的な人事制度を構築する。	(ウ) 能力開発や専門性の向上を図るため、教職員の研修制度を整備する。 【前期】	(ウ) 能力開発や専門性の向上を図るため、教職員を学外の研修等に参加させるとともに、教職員に対する更なる支援制度を検討する。	○「入国管理行政・申請取次制度講習会」(金沢6月23日)、「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」(名古屋7月2日)「部下育成力向上研修」(金沢8月6日)など、45の研修等に職員を派遣したほか、「大学基準協会 大学評価セミナー」(大阪10月10日)「全国学生相談研修会」(東京11月30日～12月2日)など、13の研修等に教員を派遣した。 また、教職員の外国語能力を向上させるため、外国語研修支援制度を制定した。年度単位で最大5名までを学内公募し、民間の語学学校などの講座を受講する場合、その受講料の半額(最大10万円)を大学が負担することとした。本年度は3名の支援を決定した。	Ⅲ		資料72 資料73

97


〔質問・意見等〕

・年度計画では「検討する」とあるが業務実績では実行した形となっている。自己評価は「Ⅲ」でよろしいですか。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(3) 人事制度の改善に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 教職員の資質向上や教育研究活動の活性化を図るため、能力、意欲、努力、業績等が公平・公正に評価され、教職員のモチベーションを高めることができる評価制度を構築する。	教職員の多様な活動や業績を適正に評価し、その結果を処遇に反映できる評価制度を構築するため、制度内容について検討し、試行による効果の検証を経て、制度化を図る。 【前期：検討、中期：試行】	(7) 教員評価を実施し、効果の検証を行う。	○職員については、目標管理方式による勤務評定を実施した。 ○教員評価のための「目標・自己評価シート」については、各教員に対し年度当初における目標の記載を求め、全教員から提出を受けた。また、年度末において目標の達成度を自己評価により記載させた。  【修正なし】	III		資料57 98

〔質問・意見等〕


・「業務実績」の記述は、66のそれと同義のようにも理解できるが、ここに66の記述を追加してもよいのでは。

(備考)

「業務実績」の記述を98に移動したほうが収まりが良いように思う。

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>財政基盤の強化を図るため、競争的資金の獲得や寄附金その他の外部資金の導入に積極的に取り組む。</p>	<p>(3) 大学の特性を生かした独自の自己収入増加策を検討し、民間の企業や芸術団体などからの資金の導入に取り組む。</p>	<p>(4) 300万円を目標に、卒業生や企業等から学生の教育に対する寄附金を募り、外部資金の導入に取り組む。</p>	<p>○教育研究基金への寄附を募るために、新たに「かなびサポーター」制度を創設した。 ○教員研究基金に教職員、市民から1,160千円、教員の研究助成として1,000千円、卒業・修了制作展の開催助成として3,260千円、合計5,430千円の寄附を受けた。</p> <p style="text-align: center;"></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【追記対応】 ○教員研究基金に教職員、市民から1,160千円、教員の研究助成として1,000千円、卒業・修了制作展の開催助成として3,260千円、合計5,430千円の寄附を受けた。 なお、そのうち「かなびサポーター」制度の創設に伴う寄附金額は、545千円（21名）である。</p> </div>	IV		資料32 資料78


107

〔質問・意見等〕

・「かなびサポーター」制度を創設したということであるがその制度を利用した寄付金はいくらあったのか。続く「教育研究基金に教職員、市民から1,160千円、…」の文章に内訳を記入した方がよいのではないですか。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標


1 評価の充実に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>自己点検・評価の結果を大学運営の改善に有効に反映させるため、点検・評価の内容、方法、体制等について不断の見直しを行う。</p>	<p>(3) 大学の点検・評価について説明責任を果たすため、ホームページ等を活用し、評価結果を積極的に公表する。 【23年度】</p>	<p>(4) 大学の点検・評価について説明責任を果たすため、ホームページ等を活用し、<u>評価結果を積極的に公表する。</u></p>	<p>○大学の点検、評価について説明責任を果たすため、「学内情報の公開に関する基本方針」に基づき、中期目標、各年度ごとの年度計画、金沢市公立大学法人評価委員会による業務実績評価結果を公表した。また、大学基準協会から本年度受けた認証評価の結果を法人情報としてホームページで公開する予定である。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年5月1日付けでホームページ上で公開している。 </div>	<p>III</p>		<p>資料84 119</p>

〔質問・意見等〕

・評価結果を公表したのはいつですか。

その他業務運営に関する重要目標
2 大学支援組織等との連携強化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
学外からの支援体制を充実するため、同窓会、保護者組織、芸術関連組織等との連携の強化を図る。	(2) 事務職員の能力の向上を図るため、芸術関連組織や民間企業等との交流研修を実施する。 【後期】	(4) 事務職員の能力の向上を図るため、民間企業等との交流研修や民間企業等への講師の派遣を実施する。	<p>○北國銀行が主催した「大学中堅職員向け研修会」（10月16日～17日）に職員を参加させ、北國銀行の職員や他大学の参加者との意見交換や事例研究による交流を行った。</p> <p>○本学の学芸員を他の芸術系大学に非常勤講師として派遣し、「博物館展示論」の授業を担当させた。学芸員の専門知識、企画能力の向上を図るとともに、他の芸術系大学の教員との交流を行った。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【その他】 ・教員以外の学芸員、司書は事務職員と位置づけている。</p>	Ⅲ		資料72 131

〔質問・意見等〕

・「学芸員」を他の芸術系大学の「非常勤講師」として派遣することは、「事務職員の能力向上」の営みとして位置づけてよいのですか。